

食料・農業・農村政策審議会 企画部会 地方意見交換資料

令和7年2月20日

JAうらほろ代表理事組合長／十勝地区農協畑作青果対策委員会委員長

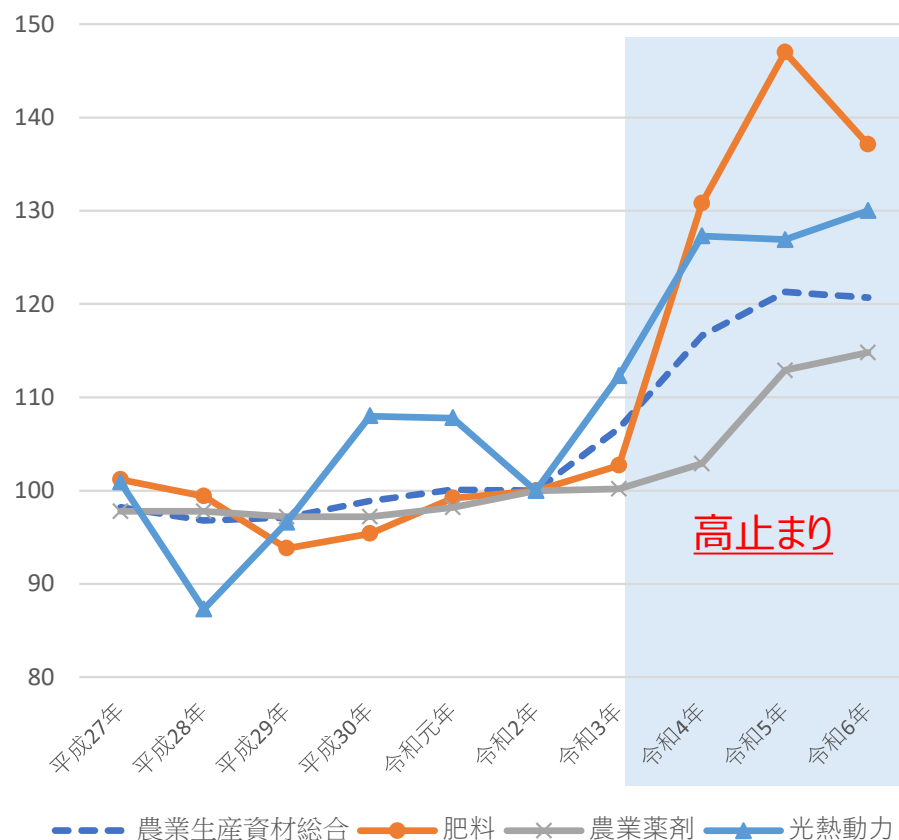
林 常 行

生産資材価格と農業所得の推移

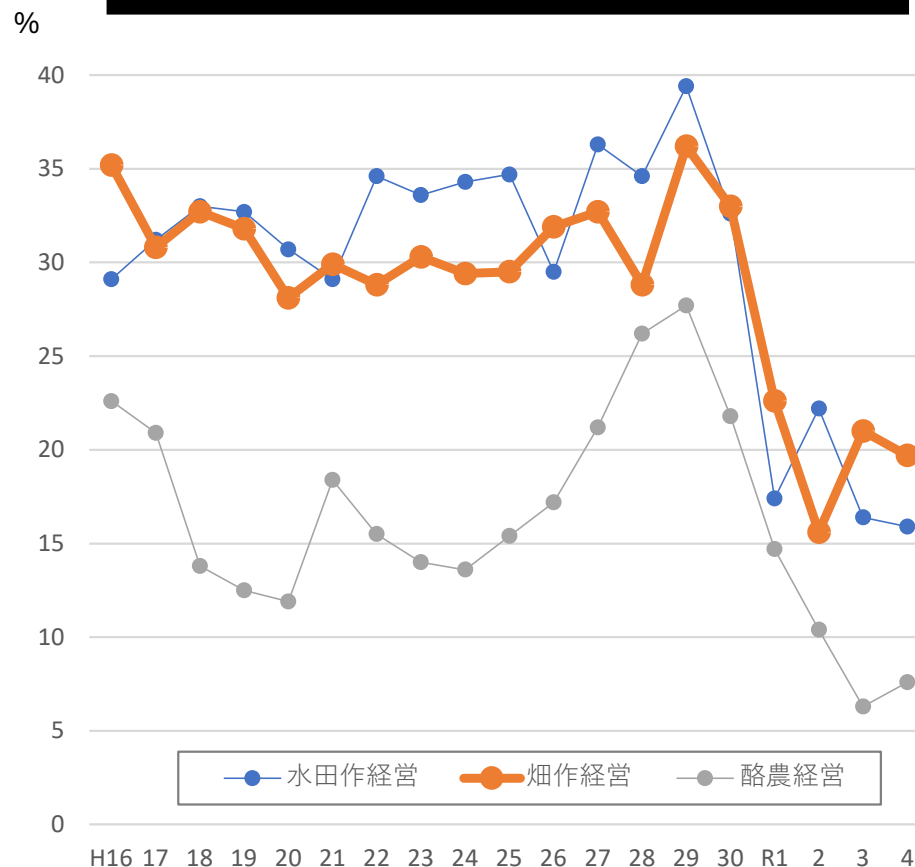
- 資材価格は令和5年度に比べ低下した項目もあるが、依然として高止まりの状況。
- 高コストの環境下でも農業所得を生み出し、再生産につなげていくことが重要。

農業生産資材価格指数(直近10年)

<令和2年=100>



経営体別の農業所得率の推移(北海道)



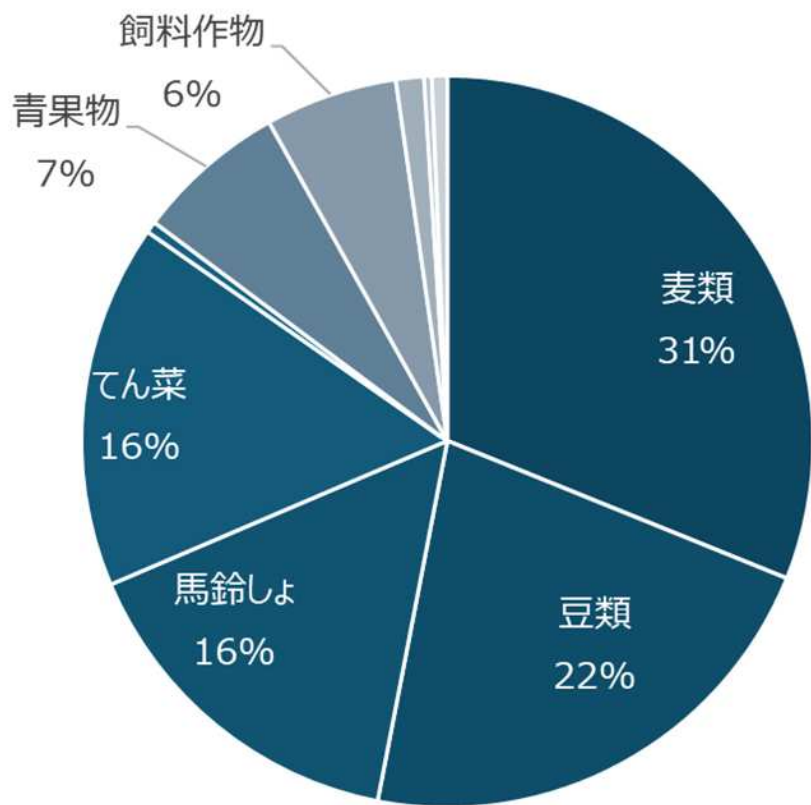
※出展「農林水産省統計部『農業経営統計調査 営農類型別経営統計』」
 ※H16～R3は、水田作経営、畑作経営、酪農経営の農業経営分析指標・経営体の概況（農業生産物の販売を目的とする経営体・1経営体当たり平均）
 ※R4は、個人経営体

参照：農林水産省 農業物価統計調査（令和6年は概数）

十勝管内における畑作物の作付実態

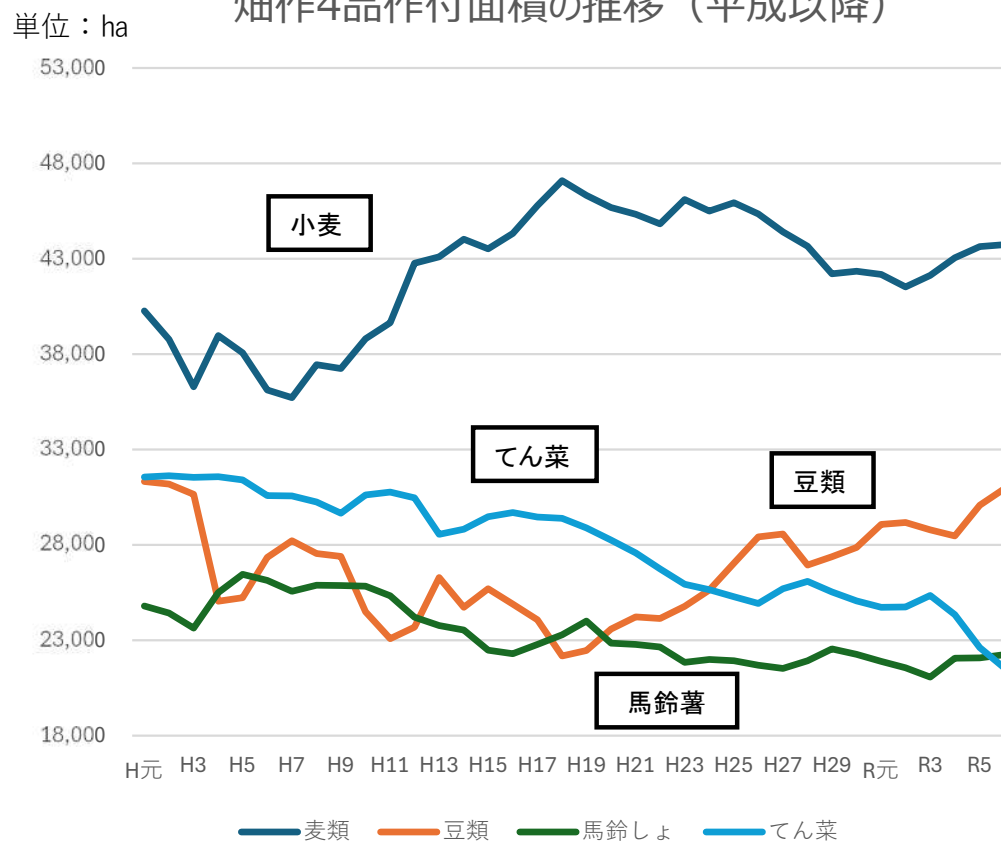
- 麦類・豆類・馬鈴しょ・てん菜のいわゆる「畑作4品」の割合は約85%となっており、経営所得安定対策など政策支援の重要度が高い。
- 農家戸数の減少に伴う1戸あたりの規模拡大により、省力作物である小麦、大豆が増加傾向にある。

畑作物の作付実態（十勝・5年産）



参照：JA北海道中央会・ホクレン「J」A管内農地利用実態調査

畑作4品作付面積の推移（平成以降）

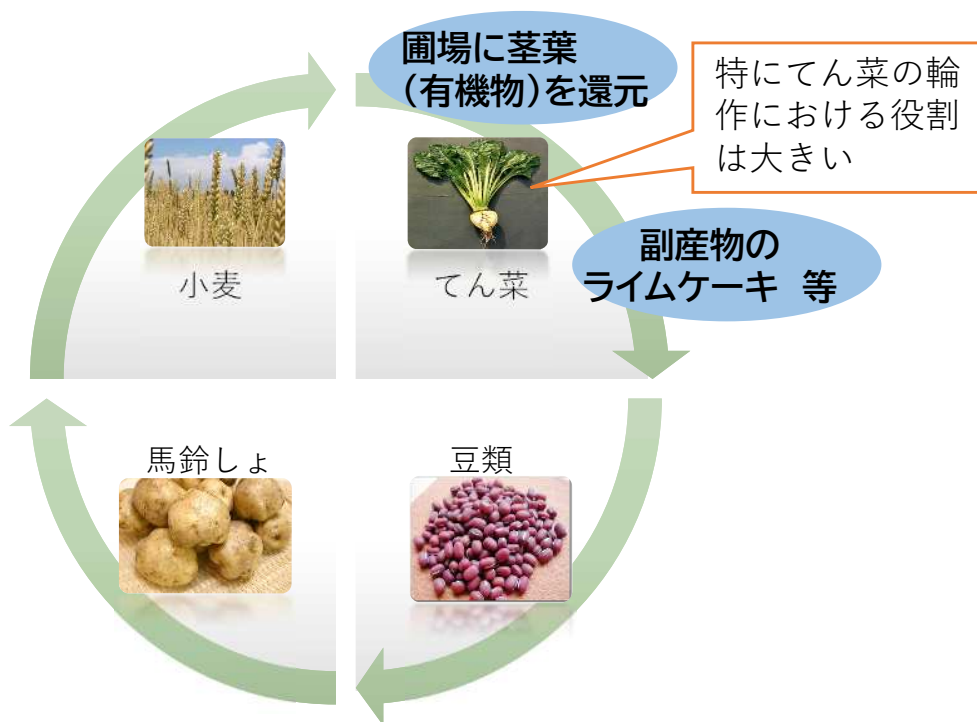


参照：十勝農協連・JA北海道中央会 農作物作付実態調査

適正輪作の重要性

- てん菜の急激な面積減少に伴い、小麦や大豆への作付け偏重が進み、輪作体系への影響が懸念。
- 輪作が崩れると地力低下や病害虫の発生等により、将来的には輪作する品目全体で減収する懸念があるため、てん菜、馬鈴しょを含めた適正輪作の再構築が必要な状況。

＜輪作の基本パターン＞



＜輪作が崩れると増える代表的な病害＞

輪作が崩れ**連作率が高まると、病害を引き起こす病原菌の密度が上昇**し、減収・品質低下につながる。

【小麦】
コムギ縞萎縮病・萎縮病

【大豆】
ダイズシストセンチュウ

【ばれいしょ】
そうか病・黒あざ病

輪作は基本技術であると同時に、畑作生産における最大の「**高等技術**」

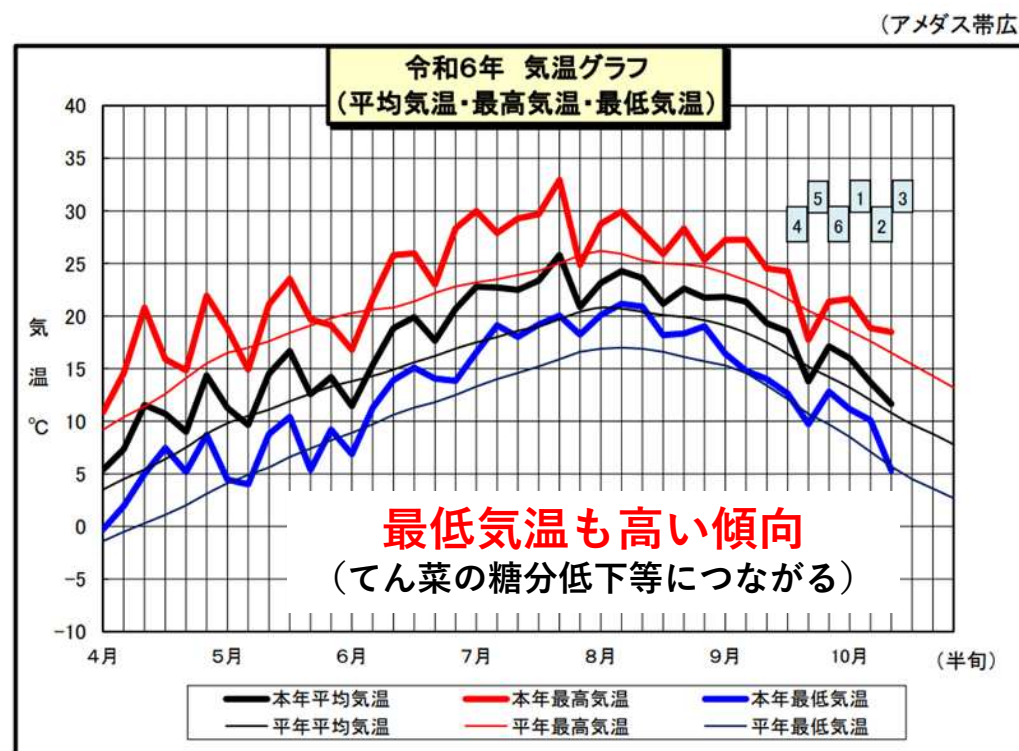
気候変動の状況

- 直近2年における5～9月の平均気温は、例年を1.6～4.0℃上回って推移。最高気温に加え、最低気温も平年より高い年が続いている。

< 十勝管内5～9月の平均気温と降水量の状況 >

		平均気温		降水量	
令和5年度	5月	13.4℃	+ 1.8℃	21.5mm	25%
	6月	18.0℃	+ 2.8℃	82.5mm	102%
	7月	22.8℃	+ 3.9℃	77.5mm	72%
	8月	23.7℃	+ 3.4℃	103.0mm	73%
	9月	20.1℃	+ 3.2℃	156.0mm	111%
令和6年度	5月	13.2℃	+ 1.6℃	44.5mm	53%
	6月	17.3℃	+ 2.1℃	47.0mm	58%
	7月	22.9℃	+ 4.0℃	66.5mm	62%
	8月	22.7℃	+ 2.4℃	148.5mm	105%
	9月	18.7℃	+ 1.8℃	34.0mm	24%

十勝総合振興局：農作物の生育状況



十勝総合振興局HPより

近年多発する高温など気候変動の影響を最小限にする観点からも、適正輪作の再構築が必要

まとめ（基本計画に求めること）

生産資材価格の高止まりや、高温をはじめとする異常気象など、営農をめぐる環境が大きく変化する中でも、担い手が営農に意欲を持てるよう、基本計画に以下の点を要望する。

- ✓畑作4品を中心とした適正輪作が今後ますます重要になるため、**畑作における輪作の再構築を基本計画に明記**するとともに、輪作を構成する品目の生産・流通に関する課題への対応を進めて頂きたい。
- ✓食料安全保障の確立に向け、農業経営が大きな環境変化にも耐えられるよう、**経営所得安定対策の充実に向けた検討を進める旨を明記**頂きたい。